

学友会先輩

28期 阪口 忠之

昭和60年4月芦屋川カレッジ発足、令和4年で39期を数える。発足当時を鑑みると世は55歳定年制時代で老人が位置付けられていたのだ。昨今は70歳現役時代であると言っても過言ではない。日本高齢者学会では75歳を高齢者と規定している。

今年95歳を迎える人が近所におられ、時々お話を伺うことがある。この人は芦屋川カレッジの1期生だという。55歳の定年と同時にカレッジに入学、この時の履修期間は6ヶ月であったと言う。カレッジに在籍しながら、自治会長、老人会長、民生委員など地域活動を82歳まで続けられ澁刺としていらっしゃったが、寄る年波と全てを後進に委ねられ、今は悠々自適に過ごされている。定年から30年間に及ぶ地域奉仕活動に携わり、自身は生涯学習に意欲を満ち、充実した日々を過ごす、こう言う人生を送っている方が身近におられ、私自身、自省しながら先輩を手本としている。

芦屋川カレッジ修了生は3,000人を超えと思われ、種々の社会活動のなかで先輩、後輩の方々にお会いし一緒になって協力し合うことが出来る。特に同期生は小学校の同級生のごとくの親近感で接する事が出来て心安らぐ一瞬を味わう事が出来て幸せである。学友会の発足も同時期とするなら令和5年で40年の長きに亘り継続して頂いた方々への感謝の気持ちを忘れてはならない。

今後芦カレ学友会学友として相互協力のもと芦屋の社会奉仕活動を支えていけたらと大風呂敷を広げて本稿を終えたいと思います。



<思い出写真>

28期テニス同好会
(各期混合花見会)
酒あり、歌あり、俳句会あり、お茶会ありの「何でも会」